

6月10日以降の高温多照により生育は回復してきました。

目標茎数(穂数の8~9割)を確保した圃場は、**直ちに中干し・作溝**を行いましょ。

確保していない圃場は**浅水管理と水交換**で分げつ促進!!

1 6月17日現在の生育状況

作柄診断圃では、平年と比べて草丈は並、茎数は**多い**、葉数は**多い**、葉色は**濃い**、となっており、特にこの7日間の高温多照で茎数が大きく増えました(下表)。

茎数の圃場間差が見られ、茎数の少ない圃場では水深が深い傾向があります。

一方、土壌中の窒素を吸収し**全体的に葉色が上がってきました**。穂肥時の茎数・葉色が適正となるように、中干しによりしっかり生育を調節しましょう。

作柄診断圃も「スマつや」による予測でも、**多くの圃場が8葉に達している**ようです。

梅雨入りが遅れていて中干しのチャンスです。今のうちに中干し・作溝を行い、登熟向上に向けてしっかりと**根の量(長さ、本数)**を確保しましょう。

【作柄診断の生育 6/17 現在】

品種 移植/直播	場所	年次	移植/播種	6/10土壌中残存 アンモニア態窒素 (mg/100g)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SOAD)
はえぬき 移植	鶴岡市矢馳	本年	5月15日	8.2	32.7	474	8.1	42.4
		前年	5月16日	6.8	31.8	421	7.5	37.8
		平年	5月16日	7.2	31.8	446	7.7	37.2
		平年比・差	-1	1.0	103	106	0.4	5.2
つや姫 移植	鶴岡市上清水	本年	5月12日	6.0	32.9	436	8.0	42.9
		前年	5月12日	6.4	35.0	398	7.6	39.7
		平年	5月13日	6.3	33.9	404	7.7	37.8
		平年比・差	-1	-0.3	97	108	0.3	5.1
雪若丸 移植	鶴岡市長沼	本年	5月12日	5.0	30.0	505	8.4	45.7
		前年	5月12日	8.1	30.7	497	7.8	45.4
		平年	5月13日	8.8*	28.9	459	7.7	42.5
		平年比・差	-1	-3.8	104	110	0.7	3.2

※前年・平年は6/10と6/20の調査データからの推定値 平年:2019~2023年の5か年平均

*:「雪若丸」の土壌中残存アンモニア態窒素の平年は2020~2023年の4か年平均

【「スマートつや姫適期作業カレンダー」による生育の予測】

移植時期	6月18日時点 葉数(葉)	中干し開始 時期	予測出穂期		
			はえぬき	雪若丸	つや姫
5月5日	8.7	6月15日頃	7月28日	7月27日	8月7日
5月12日	8.1	6月18日頃	8月1日	7月31日	8月9日
5月19日	7.3	6月22日頃	8月5日	8月4日	8月12日

モデルは庄内平坦(鶴岡市藤島)、移植時苗の葉数は2.5葉、中干し開始時期は8葉期頃
移植~6/30までの葉数展開は品種による差がほぼないので品種共通(つや姫基準)

2 当面の技術対策:

◎ 目標の莖数(穂数の8~9割)を確保したら、遅れずに中干し・作溝を開始

(1) 中干し・作溝の効果

- ・中干しには以下の効果があります。より良い収穫の秋を迎えるか否かは、中干しがポイントです。
 - ①酸素の供給 → 有害物質の除去 → 根の活力向上 → 登熟向上(食味・品質・収量の向上)
 - ②土壌中窒素の発現を一時的に抑制 → 無効分げつを抑制 → ぐず米の減少(品質・収量向上)
 - ③土壌水分の低下 → 地耐力の向上 → 作業性の向上
- ・作溝は、中干しの効果を高める重要な技術で、中干し終了後の灌排水を容易にします。特に登熟期には少ない水で素早く圃場全体に水を行きわたらせることができます。

(2) 中干し開始の目安

- ・目標とする穂数の8~9割の莖数を確保した時期が中干し開始時期です。
- ・品種や栽植密度により、目標莖数が異なるので、下表を参考に時期を判断します。

品 種	指標の穂数 (本/m ²)	指標穂数の 8~9 割		
		(本/m ²)	70 株植/坪 (本/株)	60 株植/坪 (本/株)
つ や 姫	440	350 ~ 400	17 ~ 19	19 ~ 22
雪 若 丸	580	460 ~ 520	22 ~ 25	25 ~ 29
はえぬき	540	430 ~ 490	20 ~ 23	24 ~ 27
ひとめぼれ	500	400 ~ 450	19 ~ 21	22 ~ 25

(3) 中干しの程度を目安

- ・地力(土質)や生育量に合わせて、中干しの程度・期間を調節します。

地 力：低~並 生育量：並~良	7~10 日間を目安に小ヒビが入る程度(写真左)
地 力：高 生育量：過多	有効莖確保前でも早めに実施。11~15 日間を目安にやや強めの中干し(写真右)



(4) 中干し遅れのデメリット

- ・莖数が十分に確保できていないからといって中干しを遅らせると、収量や品質が低下するリスク(穂肥時に葉色が濃く穂肥できない、無効分げつ多発など)があります。

8.5 葉期(平坦 6 月 20 日頃)までには中干し・作溝を始めましょう。

◎ 【 雪若丸 情報】 生育が不足している場合の対応

~ 6月20日現在で莖数 300 本/m²以下(70 株/坪で 14 本/株)葉色 40 以下 の場合 ~

- 水交換を行って根が養分吸収できるよう根圏環境を改善した後、窒素成分で 1kg/10a 程度を補完施用します。その後、浅水管理で分げつを促進し、6 月中に有効莖を確保します。

熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう